

茨木市立福井小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- ①言葉の特徴や使い方に関する事項 課題が残る結果であった
- ②A話すこと・聞くこと やや課題が残る結果であった
- ③B書くこと やや課題が残る結果であった
- ④C読むこと やや課題が残る結果であった

(問題形式)

- ①選択式 課題が残る結果であった
- ②短答式 課題が残る結果であった
- ③記述式 やや課題が残る結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問…**2**二 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う
- ・もっとも正答率の低かった設問…**2**四 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する
- ・無答率の高かった設問…**3**二 ・ **3**三(1)ウ ・ **3**三(2)イ ・ **3**三(2)オ

分析

・国語では、設問の中で条件がいくつか提示され、その条件を満たしながら中心となる語や文を見つけて要約する問題の正答率が低かった。

それぞれ条件が3つずつ出されており、全ての条件を満たすことがとても難しかった。

・問題番号**1**から**3**のうち、**3**の無答率が高かった。

1 **2**を考えるのに時間がかかり、**3**の問題を解く時間が足りなかった児童が多かった。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|----------|---------------|
| ①A数と計算 | 課題が残る結果であった |
| ②B図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③C測定 | やや課題が残る結果であった |
| ④C変化と関係 | やや課題が残る結果であった |
| ⑤Dデータの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問…3(2) 棒グラフから項目間の関係を読みとる
- ・もっとも正答率の低かった設問…4(3) 基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する
- ・無答率の高かった設問…1(3) ・ 4(3)

分析

- ・速さと道のりを基に、時間を求める問題は、正答率が高かった。
- ・棒グラフを読みとり、グラフから分かることを選ぶ問題の正答率が高かった。
- ・「変化と関係」「データの活用」領域においては、7割以上の正答率があり、理解している児童が多かった。
- ・算数では、「なぜそうなるのか」という理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率が低かった。
- ・三角形と平行四辺形の面積を求める問題に対して、共に正答率が低かった。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・今年度の平均正答率は国語、算数ともに全国平均を下回る結果となった。しかし、無答率は前回と比較して大きく減少し、最後まであきらめない子どもの姿が見られた。特に、算数の無答率は全国の無答率と比較しても低く、良好な結果だった。また、国語の「話す・聞く」の領域に関してここ数年、正答率が高い結果となっている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

今年度は前回と比べて、学力高位層の割合が増えた。しかし、学力低位層の割合も増えている。学力低位層の子どもたちも、算数の「変化と関係」「データの活用」領域は、高い正答率を残していた。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

- ・朝の時間に行う算数タイムで、基礎・基本の定着を図る。
- ・国語教材に合わせた学級文庫を準備したり、読書ノートを活用したりして、読書活動の充実化を図る。
- ・授業でわかったことをペア活動で説明するなど、相手に伝わるように説明する機会を増やす。
- ・特に算数では習熟度別授業を行い、それぞれの児童の課題にあわせた授業内容を進める。
- ・算数では単に公式を暗記するのではなく、図形の面積を求める公式がなぜそうなるのか考える機会を大切にする。
- ・キーワードを設定し、キーワードを使って「授業のふり返り」を書く。
- ・授業改善の推進について、全教職員で「自分の考えを図や言葉を使って説明できる力の育成」を意識して、授業を展開する。仲間とともに安心安全な環境の中、ともに学び合うことでねばり強く考える力やあきらめない力をつけていく。